

市民のくらしを守る川崎市政を



おおば
裕子

の

ゆうゆう通信

日本共産党
市会議員
中原区
市政報告

NO, 10
2008年 1月

(発行・連絡先)
日本共産党
川崎市会議員団
☎ (200-3360)
FAX (245-4140)

みなさんの声をていねいに市議会へ反映します



代表討論に立つおおば裕子議員 (12/13)

昨年十二月議会では、おおば裕子議員が共産党市議団を代表して、提案された諸議案に対する討論を行いました。川崎市心身障害者扶養共済の掛け金を引き上げる提案や、川崎市老人医療費助成制度廃止の提案など、四議案について反対意見を述べ、その他の提案について賛成を表明しました。

二〇〇八年を希望の年に 市民の願い実現に頑張ります

川崎市会議員 おおば裕子

昨年は初めての市議会で戸惑うことも沢山ありましたが、みなさま方の暖かい応援を頂きながら、市民要求実現のために、力いっぱい努力してまいりました。
さて、新しい年を迎えましたが、国政では未解決の「消えた年金」問題が尾を引き、「防衛利権」、さらに今年四月からの「医療費負担増」など、国民生活はますます窮地に追いやられようとしています。

また、川崎市におきましても最後まで守ってきた「老人医療費助成制度」が廃止されるなど、阿部「行財政改革」のもとで福祉の後退はとどまることを知りません。
私は、市会議員二年目の今年、市民のくらし・福祉を守る自治体本来の市政を取り戻すために、みなさまの声をいっそう議会に届けるために全力をつくしてまいります。



川崎市独自の

12月市議会報告

老人医療費助成制度の廃止提案に 最後まで反対を貫きました

平成十四年に一割負担となつたものの、川崎市民が三六年間守り続けてきた「老人医療費助成制度」がついに十二月市議会で廃止されました。

今年四月から経過措置はあるものの、七〇歳未満は原則三割負担となります。共産党市議団は、市民のみなさんと共に最後まで助成制度の存続の主張を貫きました。(下表)

助成廃止に対する各会派の態度
○=廃止に賛成 ×=廃止に反対

自民	民主	公明	共産	ネット	無
○	○	○	×	○	×

おおば裕子さんに期待します



井田・矢上川沿い住民

八巻 至

(68歳)

近代文明が地球環境を破壊する原因となり、生物の生存環境が回復不可能な時点にさしかかっています。
気候の変化も激しく、川崎市でも降雨量の著しい増加がみられます。従来の堤防・排水設備では対応できず、洪水の危険性が高まっています。
川崎市が公開している「ハザードマップ」は、洪水の被害予想地域の住民全員に周知してこそ意味があるものです。
河川・内水氾濫の被害から生活を守るため、おおば裕子市議の力を借り、取り組んでいきたいと思えます。



初夢ガズ

若井 英

12月議会
一般質問

新城駅周辺の交通安全対策や
職業訓練校跡地利用など質問

おおば裕子 議員

十二月市議会の一般質問で、大庭裕子議員は、十八日①武蔵新城駅周辺の交通安全対策について②学校図書館について③青年の就業支援について④県立職業技術校閉校後の跡地について、質問しました。



武蔵新城駅周辺の安全対策

武蔵新城駅周辺の放置自転車の問題を指摘しました。

まちづくり局長は、駐輪場が駅から二五〇m離れていることも影響し、七十%の低い利用率をあげるため利用時間に対応した料金体型を見直すなど、新たな方策を検討すると答弁しました。

学校図書館の予算増額など

学校図書館の問題では、川崎市の小・中学校の図書標準達成率が、三割台であることを明らかにし、図書予算の増額を、さらに司書教諭と担任の仕事は両立できない事をだし、司書教諭の実態調査を実施し、司書の役割を担える人材の配置を求めました。



自席から質問するおおば議員

若者が就業できる支援を

青年の就業支援では、無料職業紹介に訪れた青年を就業できるまで支援の手をさしのべて、求人開拓をすすめることを提案。さらに県が作成した「若者労働ガイド」をしめし、川崎市でも、中学生・高校生が活用しやすいパンフを作成するよう求めました。

県立職業技術校跡地問題

県立職業技術校跡地について、来年三月に閉校した後、県は警察公舎の整備を計画しています。

おおば裕子の



ゆびのこころひまわり

市民と教職員がいっしょに教育の問題を考える第十八回「子どもの未来をひらく川崎集会」が十二月二日、川崎区の市立富士見中学校で開かれ(約三〇〇名が

地域住民からは、集会所や公園の設置やグラウンド利用などが求められており、こうした住民からの陳情内容も示し、住民の意見を聞

高齢者医療改善の中止、撤回へ向け、
さらに市政の改善に取り組みます

「後期高齢者医療制度」の「中止」「撤回」を求める市民の声がますます広がっています。

世論におされた政府は①四月開始の七〇〜七四歳の窓口負担増(一割から二割へ)を一年間延期、②七五歳以上の被扶養者の保険料を半年間凍結、と修正せざるを得ませんでした。しかし川崎市は、こうした国の制度改悪に便乗して、独自に行ってきた六七〜六九歳の医療費助成制度(一割負担)の廃止を市議会で可決。これに対し、川崎市社保協をはじめとする市民



12月6日、市役所前で存続を訴えるみなさんに激励を送る共産党市議団

いてその実現のために川崎市が県に働きかけることを市長に要望しました。

の皆さんは、市独自の「老人医療費助成」を

継続し、七四歳まで助成対象を拡げるよう求め、請願や座り込みなどをを行いました(写真)。

参加)、私も参加をしました。

梅原利夫和光大学教授(教育学)が講演し、全国一斉学力テストの問題点を告発しました。「本当の学力向上には役立つ、人間をランキングで見る社会をつくる」「テストは弱肉強食型の競争感をおももの」という話にはうなずくばかりでした。

分科会では、「いま、中学、高校は...」のテーマで、学校や塾の先生たちから受

験制度で苦しむ子どもたちの実態をうかがい知ることができました。長く個人塾を経営している先生からは、「経済的な問題で教育格差が生まれている」「学習テクニックではなく子どもに寄り添って学習することが大切」などが話され、高校教師からの、「前期・後期の入試制度は改めるべき」との指摘に、私もこの声に応えて行かなければと痛感しました。

私たちの町

木月の地名

地名研究者 やすいみちこ

この地に「住吉神社」や「元住吉駅」という名前があるのを不思議と思いませんか。

明治二十二年、合併の旋風が吹き荒れた時、今井、井田、苅宿、市ノ坪、木月五村は合併し、「住吉村」となりました。同四十二年には、村々の神社を当時の矢倉神社に合祀して「住吉神社」と改めました。後、大正十四年に中原町となり、昭和八年「川崎市木月」となり、その時点で「住吉」の村名はなくなりましたが、神社名はそのまま現在に続いています。

また、その頃多摩川を越えて、横浜方面へ延びた東横線が、この地を横断するために約四万坪の田畑が買収され、埋め立てられました。矢上川を切り崩し、水田の真ん中に建てられた駅舎はいみじくも「元住吉」とされました。



昭和27年当時の元住吉。関東労働災害病院あたりから元住吉駅方面を見る
タウン誌「とうよこ沿線」より